

「映像発信てれれ」代表

しものぼう しゅうこ
下之坊 修子さん



プロフィール

1950年、大阪府河内長野市生まれ。府立富田林高校を卒業し、21歳で結婚。91年、ウーマンズスクールで「ビデオ講座」受講。93年、講座修了生で映像制作グループ「ビデオ工房AKAME」を設立。翌94年から02年まで府立女性総合センターの非常勤職員。この間、山形国際ドキュメンタリー映画祭や全州国際映画祭(韓国)などに出品。一方03年には「カフェ放送てれれ」を開始。今年1月、独立して新組織の「映像発信てれれ」を立ち上げるなど活動中。



2003年10月 クレオ大阪北にて「カフェ放送てれれ」上映(写真提供:下之坊さん)

日本に「カフェ放送」を導入

大阪で、「カフェ放送」と名づけられた活動を実践し、広めている人たちがいる。

「カフェ放送」とは、短編のビデオ作品を一般やプロから募り、1時間程度につないで喫茶店やカフェバーなどで上映会を開催。上映後、店のオーナーや制作者、スタッフに一般客も加わり、作品について自由に話し合う場を持つ活動。狙いは、「市民による地域情報の発信」で、その仕掛け人が「映像発信てれれ」代表者で「カフェ放送てれれ」などを主宰する下之坊修子さんである。

下之坊さんによると、カフェ放送のヒントとなったのは、フランスはパリのカフェで行われているビデオ作品の上映会だ。01年に市民メディアの研究者たちのヨーロッパ視察に同行した際、体験したもののだが、「あちらのカフェはお酒が出るのですが、広い店内にたくさんのテレビモニターが置いてあって、ファッショナブルなデモの様子を写した作品からアート作品までを、お酒を飲みながら楽しんでいるんです」。

当時、ビデオ映像の発表の仕方を模索していた下之坊さんは、パリでの体験

を日本に導入することになる。日本初の「カフェ放送」が大阪でスタートしたのは、ヨーロッパ視察から2年後。ビデオ制作者は小学生から大学生、70代、80代の高齢者まで幅広く、テーマも子どもの表情を追ったものからドキュメンタリーまでさまざま。「たとえば、バリアフリーをテーマに従来は主に健常者が撮っていたものを、車椅子利用の身体障害者が町に出て撮るんです」。それが、「自分たちが言いたいことを自分たちで撮る」ことになり、また上映会が、「人と人とが映像を通じて交流し情報を発信する拠点になる」のである。

講座受け ビデオ漬け人生

大阪は南河内で生まれ育った。ビデオ映像との出会いは、離婚の前後に通ったウーマンズスクールでのビデオ講座だった。「カメラを手段に、工夫しながら自分の思いを表現することのおもしろさと、完成した作品に共感してくれる人がいて、自分だけの問題ではなく他人にも通じる問題だと確認できる魅力」のどりことなる。ちなみに、初期のテーマは「離婚」だった。

以降は、ビデオ漬け人生 と言っても過言ではない。女性問題をテーマとする映像制作グループ「ビデオ工房AKAME」での活動。また就職先でもビデオオペレーターとして編集業務を担当する一方で、ビデオ講座の講師も。03年には、「あなたの町の喫茶店でビデオ制作」をセミタイトルに「カフェ放送てれれ ビデオ講座」(主催・大阪市立総合生涯学習センター)も成功させている。

今年1月、「カフェ放送てれれ」と、ケーブルTVで作品を紹介する「市民チャンネルてれれ」を2本柱に、「ビデオ工房AKAME」から独立。来年1月には市内に新しい事務所兼スタジオをオープンさせる。

上映会は現在も市内のほか、尼崎市や名古屋市などで行われているが、7月には東住吉区と鹿児島市のギャラリーでも開催される予定で、下之坊さんは「アマ・プロを問わず作品を募集中。気軽に問い合わせいただければ」と呼びかけている。

(文・脇本勤 / 表紙写真 高島悠介)

「映像発信てれれ」のURLは<http://www.terere.jp/>